



年 組 名前

道新で
ワークシート

「羽衣太鼓」50年 演奏格好よく

東川 あす誕生祝う舞台



演奏会に向け練習を重ねる保存会のメンバーたち

【東川】羽衣太鼓保存会（青木哲也会長）は25日午後0時半から、町の郷土芸能「羽衣太鼓」の誕生50年を記念した演奏会を町複合交流施設せんとびゅあ（北町1）で開く。町内の若者11人で始まった活動は、今では約30人の演奏者

が町内外で演奏を披露している。同会は「太鼓の格好よさを知ってほしい」と来場を呼びかけている。羽衣太鼓は1969年、町内の農家や役場職員などの若者が、盆踊りの演奏のために集まり「東川町バチクラブ」を結成したのが始

まり。同年、道内一の落差を誇る町内の名所「羽衣の滝」から名前を取り「羽衣太鼓」と命名した。クラブ設立5年目から参加している田村稔さん(63)は「最初は人数も少なく、3人で演奏をしたこともあった」と振り返る。

その後、次第にメンバーが増え、町内外の祭りやイベントでの出演も多くなり、95年にはラトビアで演奏旅行している。2008年、継続的な活動を目指して保存会を設立。09年に町の無形民俗文化財に認定された。

同会のオリジナル曲は原点となる盆踊り曲「櫓打ち」と大雪山系の雄大な自然を表現した「大雪四季打ち」「清流勇み打ち」「溪谷荒瀬打ち」の4曲。工藤和博活動部長(44)は「音の強弱を重視したダイナミックな演奏が持ち味」とPRする。

当日は、小中学生のジュニアの部が1曲、高校生以上の保存会が2曲演奏する他、上川管内の太鼓演奏の5団体がゲスト出演する。

(武藤里美)

2018年11月24日朝刊旭川・上川版(記事は再編集しています)

- ①「羽衣太鼓（はごろもたいこ）」は今から何年前に、どれくらいの人数で始められたものですか。
- ②「羽衣太鼓」は、今では約30人の演奏（えんそう）者がいます。どのようなところで演奏しているのでしょうか。